

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-09-03

國會法講義

佐々木, 茂三郎 / 太田, 峯三郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

和佛法律學校講義録 / 和佛法律學校講義録

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

28

國會法

査表

國會法講義

本校講師 太田峯三郎先生口述

本校々友 佐々木茂三郎君筆記

國會法講義 (第一回)

余ハ今日ヨリ國會法講義ノ囑ヲ受ケタル爲メ諸君ト共ニ之ヲ研究セシトス夫
ノ刑法若クハ訴訟法ノ名稱ノ如キハ諸君ハ既ニ其名稱ニ慣熟シタルカ故ニ其
一派ノ學問ヲ構成スルコトヲ疑ハサルヘシト雖トモ國會法ニ至テハ其名新ニ
シテ未タ完全ナル學科ヲナサ、ルヲ以テ諸君或ハ其名稱ノ妥當ナラサルヲ疑
フコトアラン然レトモ余ハ其名ノ妥當ニシテ且ツ一ノ學科ヲナスニ十分ナル
モノアリト信スルナリ何トナレハ學科トハ世上ノ現象ヨリ元則チ抽出シテ研
究スルコトヲ云フモノナレハナリ而シテ夫ノ訴訟法ノ如キハ裁判所ノ審判手續
ニ過キスト雖トモ猶ホ此手續中ヨリ元則チ抽出シテ以テ之ヲ攻究スルニ非ス

(國會法)

ヤ然ラハ則チ此國會法タルヤ其元則チ抽出メ以テ之ヲ攻究スルヲ得ル以上ハ之ヲ一科ノ學問ト爲シ之ニ學問的ノ名稱ヲ付スルニ何カアラン且ツ余カ之ヲ國會法ト稱スル所以ハ一般ニ議會ノ團體ヲ云フニアラスシテ一國ノ政治法律ヲ評スル團體ヲ指示スルナリ若シ之ヲ廣ク議院又ハ議會法ト云フトキハ凡テ議會ノ團體ヲ指示シ彼ノ市町村會郡會又ハ府縣會ノ議會ニモ適用スヘキ原則ヲ研究スルヤノ嫌アリ余ハ單ニ國會ニ普通ノ原則ヲ論究セントスルモノニシテ彼ノ一般ノ廣キ意義ヲ有スル議會ニ適用スヘキモノヲ目的トスルニアラサルナリ是レ余カ國會法ノ名ヲ付シタル所以ナリ

國會法ト云フコトハ歐州ニモ未タ一科ノ學問トシテ論究シタル者アルヲ見ス唯タ其慣例即チ國會ニ於テ議決シタル所ノモノ即チ恰モ民法若クハ刑法ノ裁判例ノ如ク議決例トナリテ存スルモノアルノミ然レトモ此ノ議決例中ニハ必ス原則トシテ抽出ス可キモノアルコトハ余カ信シテ疑ハサル所ナリ今ヤ余ハ右ノ議決例又ハ各國ニ於テ制定シタ議院ニ關スル法律又ハ憲法中ヨリ原則ト信スルモノヲ蒐集シ之ニ據テ以テ國會ニ關スル理論ヲ示シ後來代議士タル可

キ諸君ト共ニ研究シテ其教ヲ乞ハントス

余ハ豫メ茲ニ講述ス可キ順序ヲ示シ置カン余カ講説ノ順序ハ左ノ如シ

第一編 國會ノ權限

第一章 國會ノ財政權

第二章 國會ノ外交條約ニ於ケル權

第三章 國會ノ大赦ニ於ケル權

第四章 其他ノ權

第二編 國會ノ成立

第一章 議長局ノ組織

第二章 資格ノ審査

第三編 法律案ノ審査

第一章 法律案建議ノ發議

第二章 審査委員

第三章 全員委員會

(國會法)

第四編 會議

第一章 公會議

第二章 修正

第三章 發言

第四章 讀會

第五章 先決問題

第六章 定足數

第七章 表決

第八章 議事錄

第九章 會議ノ秩序

第五編 議會ノ監督

第一章 請願

第二章 内閣大臣ニ對スル疑問及ヒ質議

第三章 上奏及ヒ建議

第六編 議院ノ會計

ノ順序ハ學科的ノ正當ナル順序ニアラス若シ之ヲ學科的ヨリ論スルトハ第一憲法上ヨリ政權ノ組織ヲ説カサル可ラス又國會ヲ組織スル議員ノ資格ヲ説キ如何シテ國會ノ議員ニ選舉セラル、カヲ論セサル可ラス然トモ憲法ハ本編ノ主眼ニアラス且ツ他ニ講述セラル、教師アリ又歴史ハ日本ニ之ナキカ故ニ之ヲ示スコト能ハス要スルニ余カ順序ハ學問上ノ順序ヨリハ寧ロ實際上ヨリ立タル順序ナリト云フ可シ
又國會ヲ組織スル議員ノ資格其選舉ノ方法ハ選舉法ニ譲ルヘキモノニシテ是レ亦余カ説ク處ニアラス他ニ講師ノアルアリ故ニ余ハ寧ロ實際上ヨリ順序ヲ設ク學科的ノ非難ハ之ヲ甘受セント欲ス

第一編 國會ノ權限

國會ハ立法部ナリ其權限ハ法律ヲ制定スルニアリト云フノ外又他ニ説明ス可キモノナキカ如シ然レトモ其權限タルヤ議スル所ノ事件ニ依リ或ハ十分ナル

(國會法)

六
モノアリ或ハ制限セラル、モノアリテ共規一ナラサルナリ例ヘハ或ハ財政ニ
關シ或ハ外交ニ關シ或ハ大赦ニ關シ其權限一ナラサルカ如シ故ニ之ヲ攻究ス
ル亦同一ニ其事件ニ依ラサル可ラス

第一章 國會ノ財政權

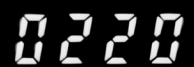
議院ニ於テ最モ困難ニシテ最モ重要ナル議事ハ豫算案ノ會議ナリ政府ノ信用
之ニ依テ立チ其交渉ヲ來スモ亦之ニ依ル而シテ議院財政權ノ用方如何ハ國
家人民ノ休戚ニ直接ノ影響ヲ來サスンハアラス議院ノ財政權ハ國會法ニ於テ
尤モ緊要ニシテ尤モ研究セサル可ラス
今歐洲諸國ノ議會カ豫算案ニ對スル權限ヲ案スルニ其豫算額ヲ增加スルト又
ハ削減スルノ場合ニ依テ其權限ハ一ナラサルナリ或國ニ於テハ議院ハ豫算額
ヲ削減スルノ權アレトモ增加スルノ權ナク又或國ニ於テハ增加スルノ權アレ
トモ削減スルノ權ナク又或國ニ於テハ增加減少兩ラ自由ナルモノアリ依テ余
ハ之ヲ二節ニ分テ説明セントス

第一節 豫算案増加ニ於ケル國會ノ權

國會ハ豫算案ニ對シ其額ヲ增加スルコトヲ得ルヤ否ヤハ一ノ問題ナリ歐洲學
者ハ殆ト咸チ議會カ漫リニ増額ヲ爲スノ非チ唱フル者ノ如シ蓋シ山林ノ多キ
州郡ヨリ撰出セラレタル議員ハ國庫ヨリ山林ノ特別保護金ヲ得ント欲シ河川
多キ州郡ヨリ撰出サレタル議員ハ國庫ヨリ堤防ノ特別保護金ヲ得ント欲スル
ニ當リ二者相結託シ彼我相贊助シ其議場ニ出ルヤ互ニ保護金ヲ得ンコトヲ主
張シ我ハ彼ノ建議ヲ助ケ彼ハ我カ發議ヲ贊シ遂ニ豫算案ヲ增加スルコトヲ甚少
ナラサルハ掩フ可ラサルノ事實ナリ之ヲ增加スル猶ホ可ナリ然レトモ國庫ノ
經費ヲ增加スルトキハ其經費ヲ支フ可キ國庫ノ收入モ亦增加ス可キノ方法
ヲ案セサル可ラス然ルニ彼等ハ其收入ヲ增加スルノ點ニ於テハ毫モ顧ルトコ
ロナシ千八百八十八年佛國豫算報告委員ノ報告ニヨレハ收入ヲ減スルコト四
億六千八百八十二萬フランナリ而シテ經費ヲ增加スルコト二億七千六百拾七
萬四千フランナリ是ニ於テカ豫算ハ忽チニ其平均ヲ失ヒ政府ハ止ムヲ得ス退

加豫算ヲ國會ニ提出セサルヲ得サルニ至リタリ而シテ一般ノ人民ハ唯々追加豫算ノ提出ヲ見テ政府ヲ怨ミ議會ノ議決ノ當否ハ敢テ問ハサルナリ政府ニア
ル亦難ヒ哉
英國ニ於テハ別ニ憲法上ノ定メナシト雖トモ千八百六十六年三月廿六日下院
内部ノ規則ニ於テ豫算案ニ對シテハ削減スルコトヲ得ルモ増加スルコトヲ得
スト定メタリ然レトモ猶ホ豫算額ヲ増加スルコト少ナカラス千八百八十三年
ニ於テ豫算委員ノ爲シタル報告ニ依レハ六十六年以來豫算案ニ對シ動議ノ起
リシコト五百七十六回其中二十ヲ除クノ外ハ皆豫算案増額ノ動議ナリト議院
規則ノ規定アルニモ關ハラス其増額ノ動議アルハ何故ソ是則チ議員ハ選舉人
民ノ心ヲ失ハス次期ノ選舉ニ當ランコトヲ欲スルニ職由スルノミ
此ノ如クナレカ故ニ豫算案増加ノ事ハ歐洲學者ノ非難スル所ナリ然ラハ我日
本ニ於テハ如何英國ノ如ク議院ノ内規ヲ以テ増額ヲ禁ス可キヤ又ハ法律ヲ以
テ禁ス可キヤ余ハ信ス法律ヲ以テ之ヲ禁スルノ正當ナラサルコトヲ何トナレ
ハ我國議院ノ豫算案増額ニ對スルノ權限ハ決シテ制限ヲ受ク可キモノニアラ

サルコトハ憲法第六十四條ヲ一讀スルトキハ知ルニ十分ナリトス全條ニ曰ク
「國家ノ歳出歳入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ豫算ノ款項ニ超過
シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要
ス」ト故ニ我國議院ハ豫算額ヲ増加スルノ權ハ自由ナリ我カ國會ノ豫算案ニ對
スル權限ハ憲法第六十七條既定ノ歳出ニ對シ削減減額スルヲ得サルノミ別ニ
之ヲ制限スルモノアルヲ見サルナリ故ニ之ヲ増加スルハ縱令實際アリトスル
モ法律ヲ以テ其議權ヲ制限スルハ憲法ノ許サ、ル所ナリ然ラハ之ヲ禁スルノ
方法ハ唯々議院ノ内規ヲ以テスルノ外ハ良策ナキナリ然レトモ議院ハ果シテ
内規ヲ以テ議權ヲ制限スルコトヲ得可キヤ余ハ實際制限スルコトヲ得スト信
ス何トナレハ前已ニ說示シタルカ如ク英國議院ハ自ラ豫算額増加ノ權ヲ拋棄
シタリト雖トモ千八百八十三年ノ報告書ニ依レハ豫算案ニ對スル動議五百七
十六回ノ中二十ヲ除クノ外ハ皆増額ノ動議ナリシト云フヲ以テ見レハ此内
規ヲ以テスルモ實際ニ於テハ行ハレサルニアラサルナキヲ得ンヤ故ニ我國議
會ニ於テハ議員タル人ノ道德心ニ訴ヘ歐洲人ノ如キ私利ヲ營ムノ卑心ヲ去ル



可キノミハ、所チ約言スレハ、豫算ノ増額ハ大ニ弊害アリテ、歐洲學者ノ憂フル以上ニ述タル所チ約言スレハ、豫算ノ増額ハ大ニ弊害アリテ、歐洲學者ノ憂フル所ナリ、然レトモ之ヲ禁スルハ法律ヲ以テス可ラス、又議院規則ヲ以テス可ラス、此弊ヲシテ我未來ノ國會ニ發生セサラシムルコトヲ欲セハ之ヲ議員ノ道德心ニ訴ヘ初期ノ國會ニ於テ善長ナル慣例ヲ作スニ在ルノミ、此豫算増加ニ付テ議院ノ有スル權限ヲ歐洲諸國ニ就テ其例ヲ示サン、獨乙、獨乙國會ハ一ノ議案ニ對シテ修正ノ動議ヲ起ストキハ常ニ十五名ノ贊成者アルコトヲ要ス、故ニ此豫算案ニ對シテモ亦十五名ノ贊成者アルニ非ラサレハ修正(増加若クハ削減)ノ動議ヲ起スコトヲ得ス、然レトモ苟モ十五名ノ贊成アラシカ自由ニ増加シ若クハ削減スル動議ヲ起スコトヲ得可ク、他國ノ如ク一モ制限セラル、モノナシ、斯ノ如ク獨乙ニ於テハ其豫算ニ對スルノ權ハ自由タリト雖トモ別ニ英佛ノ如キ弊害アルコトナシ、獨逸國會ノ慣例ヲ見ルニ、減額スルコトアルモ増額スルコトハ殆ト無シト云フヘキナリ、伊太利、伊太利ハ豫算ニ對シテハ十分増減スルノ權アリ、唯ク此國ハ議會カ豫

算ニ對スル權限ヲ濫用シテ常ニ減額ノ甚シキニ至ルノ弊アリ、是他アラシ、民間ノ不平者カ政府ニ對シテ其不平ヲ洩スノ手段ニ出ルノミ、ベルヨツク、阿蘭陀、羅馬ノ諸國ニ於テハ議院ハ豫算案ニ對シ十分ナル増減ノ權ヲ有ス、瑞典ハ議會カ豫算案ニ對スル權限ニ付テハ自由ナラサルナリ、豫算案ニ對シ修正ノ權ヲ行フニハ二箇ノ條件ヲ必要トス、第一條件、豫算案ニ對スル修正ノ動議ハ開會後十日内ニ提出スルコトヲ必要トス、第二條件、豫算案ニ對スル修正ハ兩院協議會ノ贊成ヲ得ルコトヲ要ス、故ニ十日内ニ動議ヲ提出シテ之ヲ兩院ノ協議會ニテ可決セタル上ニアラザレハ修正ヲ加フルコトヲ得サルナリ、獨逸聯邦ウルタンベル、此國ハ其憲法第一百七十二條ニ於テ豫算ノ増加ヲ禁セリ、其條ニ曰ク、新ニ租稅ヲ起シ、國債ヲ起シ、豫算案ニナキ費目ヲ起スノ法律案ハ國會獨リ發議スト、

終ニ臨ミ英國ノコトニ付キ猶ホ一言述ヘサル可ラサルモノアリ英國ニ於テハ前既ニ述ヘタル如ク千八百六十六年ノ議院規則ニ於テ豫算ノ増加ハ國王ノ要
 求ナケレハ提出スルコトヲ得サルモノト爲セリ然レトモ議院ニ於テハ之ヲ回
 避スルノ方法ヲ有セサルニアラサルナリ是ヲ以テ國會ニ於テ其増加ヲ爲サン
 トスルトキ例ヘハ某鐵道會社ニ保護金ヲ附與スルノ發議ヲ爲サントスルトキ
 ハ先ツ政府ニ請求シテ其經費請求ノ案ヲ出サンコトヲ建議ス抑モ英國ノ政府
 ハ議院ノ多數黨派ヨリ組織スルモノナレハ議院ノ一委員會ト云フモ不當ニア
 ラサルナリ故ニ議院ノ多數カ決シタルトキハ政府ハ殆ント之ニ服従スルノ義
 務アルモノ、如シ故ニ議院ヨリ建議スルトキハ政府ハ之ヲ納レテ經費ノ請求
 案ヲ出サ、ルコトナシ
 又右ノ方法ニ依ラサルトキハ他ノ方法ニ依テ増額ノ制限ヲ免ル、ヲ例トセリ
 例ヘハ或經費ヲ要スル案ヲ發議スルトキニハ此費額ハ他日政府ヨリ國會ニ請
 求スル豫算案ノ可決シタルモノヲ以テ之ニ充ツトノ緒言ヲ付シテ其案ヲ提出
 シ以テ増額ノ制限ヲ免ル、ノ路ヲ開ケリ是ニ於テカ知ル英國議院ノ豫算増額

ノ制限ハ其名アリテ其實ナキヲ日本ニ於テハ憲法第六十七條ノ制限ヲ除クノ
 外ハ國會ノ豫算案ニ對スル制限アルコトヲ見サルハ前已ニ述タル所ナリ然レ
 トモ其増額ノ濫弊ハ亦少々ニアラサルナリ世人之ヲ苟且ニ付シテ願ミス唯タ
 會計法補則ヲ以テ議會ノ財政權ニ付着セル一弊ナリトスルモノ、如シ余ハ議
 會ニ於テ漫ニ増額ノ權ヲ行ハサル良習慣ヲ生スルニ勉ムルハ今日ノ尤モ急ナ
 ル務ノ一ナリト信スルモノナリ

(第二回)

第二節 議院ノ豫算額削減ニ於ケルノ權

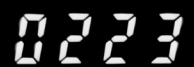
日本ニ於テ豫算案ニ對スル議會ノ權限ハ唯タ憲法第六十七條ノ制限アルノミ
 ニシテ他ニ何等ノ制限アルコトナキハ前節ニ述ヘタルカ如シ故ニ憲法上ノ大
 權ニ基ケル故ニ既定ノ歳出及ヒ法律ノ結果ニ由リ又ハ政府ノ義務ニ屬スル歳
 出ニ付テハ政府ノ同意ナキニ非ラサルヨリハ之ヲ廢除シ又ハ削減スルノ權ナ
 シト雖トモ其他ノ豫算案ニ對シテハ十分ニ其ノ額ヲ減スルノ權アリ

議會カ豫算減額ノ權アルハ獨リ我日本而已ナラス歐洲諸國ニ於テモ亦我カ憲法第六十七條ノ如キ或二三ノ例ヲ除クノ外ハ十分ナリトス夫レ歐洲諸國ニ於テ古來ヨリ議院制度ノ弊害アルハ未ダ嘗テ豫算減額ニアラスンハアラス蓋シ豫算ハ政府運命ノ繫ル所ナリ政府ノ變遷ハ一ニ豫算會議ノ結果ニ依ラスンハアラス議會ハ豫算案減額ノ權ヲ濫用シ其減額ハ豫算ヲシテ其平均ヲ失セシムルノミナラス行政機關ノ運轉ヲ妨進スルコト實ニ少ナカラサルナリ政府ハ行政權ノ運轉ヲ圓滑ニセンカ爲メ議會ノ減額權ノ執行ヲ妨ケントシ議會ハ政府ニ十分ノ運動ヲナサ、ラシメントスルヨリ政府議會トノ間ニ爭ヲ起スコトハ歷史上ニ於テ昭々乎トシテ掩フ可ラサルノ事實ナリ是ニ於テカ歐洲諸國ニ於テハ議會ノ豫算案ニ對スル減額ノ權ヲ制限スルノ必要ヲ感シ英國ニ於テハ既ニ久シク既定ノ歲出ナルモノヲ設ケタリ獨逸ニ於テモ亦近年ノ制ニ於テ七年間繼續ス可キ軍費ノ歲出ヲ設ケタリ是等ハ皆ナ議會ノ議權ニ對スル制限的ノモノニシテ議會カ容易ニ減額削除ナシ得可キモノニアラサルナリ今歐洲諸國ノ例ヲ引テ之ヲ示サン

既定歲出ノ最初ニ起リシハ英國ナリ千六百八十八年ウエリヤム三世ノ時五當リ帝室費ヲ以テ議會ノ減額削除シ得可キモノニ非ラスト定メタリシカ後ニ至リ公債ノ利子及ヒ官吏ノ恩給年金モ亦タ議會ノ減額シ得可ラサルモノトナセリ斯ク既定ノ歲出ハ定メタレトモ之ニ對當スヘキ經費ノ充ツヘキモノナキヨリシテ歲出ヲ定メタル以上ハ歲入モ定メサル可ラストノ理由ニ依リ既定ノ歲出ト同一ノ性質ヲ以テ議會ノ減額シ得可ラサル歲入ヲ定メタリ所得稅茶稅砂糖稅即チ是ナリ然リト雖トモ此所得稅茶稅砂糖稅ノ收入ハ今日ハ既定永久ノ性質ヲ有セサルモノトナレリ然レトモ猶ホ日本憲法第六十三條ノ如ク更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ徵收スルモノトセリ英國ニ於テハ前ニ述ル如ク千六百八十八年以來年ヲ逐テ既定ノ歲出定メ今日ニ至テ尙ホ存スル歲出ハ左ノ如シ

- 第一 帝室費
- 第二 公債ノ利子
- 第三 軍人及ヒ文官ノ恩給金

(國會法)



第四 衆議院議長ノ報酬

第五 高等裁判所裁判官ノ俸給

第六 外交ノ費用

トス右ノ六項中衆議院議長ノ報酬ヲ以テ既定ノ歳出ナリト爲セシハ何ノ故ナルカ之ヲ解スル能ハサルナリ諸君モ知ル如ク英國ハ慣習固着主義ノ國ニシテ一旦斯クナリト定ムルトキハ其事ノ善惡ヲ論セス是非ヲ問ハス之ヲ改ムルコトヲ爲サハルナリ獨リ此衆議院議長ノ報酬ヲ以テ既定ノ歳出トシテ今日ニ存スルハ蓋シ亦頑固ノ結果ニアラサルナキヲ得ンカ

英國ノ千七百八十八年ニ於ケル既定歳出ノ豫算額ハ二千八萬磅ナリ(一億萬圓以上ナリ)之ヲ其國ノ總歳出ニ比算スルトキハ三分一ナリトス而シテ此總歳出三分ノ一ニ當ル規定ノ歳出ハ毎年之ヲ豫算案ニ編入シテ議會ニ差出タスモノニアラス實ニ此歳出ハ豫算案ヨリ取除カレタルモノナリ故ニ英國議院ハ歳出三分ノ一ニ對シテ減額ノ權ヲ行フ能ハサルノミナラス之ヲ議スルコトヲモ得サルナリ然レトモ一國ヲナス以上ハ之カ政府ヲカカル可ラス政府アル以上ハ政

府ヲシテ其任ヲ盡サシムル丈ケノ經費ヲ支給セサル可ラス故ニ其歳出ニシテ政府ノ維持ニ必要ナルモノトセハ議會ノ議權ヲシテ及ハサラシムルモノ何ノ不可ナルヲ見サルナリ

次ニ佛國ノ例ヲ取テ示サンニ佛國ニ於テハ千七百八十九年革命ノ時ニ當リ有名ナルミラボー氏ハ英國ノ例ニ倣ヒ公債ノ利子及ヒ其償還ニ充ル爲メニ或種類ノ收入ヲ以テ既定ノモノトナシ毎年議會ノ議ス可キモノニ非ラスト定メシコトヲ發議シタリシモ此說遂ニ行ハレサリキ次テ千七百九十一年ニ至リ此ミラボー氏ノ說並ニ英國ニ於ケル既定歳出ノ精神漸ク佛國人ノ採ル所トナリ憲法ニ於テ特ニ一條ヲ設ケ公債ノ償還ニ充ル歳出ト王室費用トヲ以テ既定ノ歳出トナシ議會ノ減額削除若クハ其支出ヲ中止シ得可キモノニアラスト定メタリ然レトモ其憲法モ永續スル能ハス幾ハクナクシテ廢止スルニ至レリ

千八百二十七年ニ至リ或ル國會議員ハ豫算案ヲ二種ニ區分シ一ハ議會ニ於テ毎年自由ニ議決シ得ルモノト爲シ他ノ一ハ自由ニ議スルコトヲ得サルモノト爲サント發議セシカ此發議モ亦行ハレス遂ニ今日ニ至ルマテ憲法上又ハ法律

上又ハ議院規則既定ノ歳出ナルモノヲ見サルナリ是ヲ以テ佛國議會ハ豫算額ヲ削減スルニ付テハ毫モ制限ノ存スルモノナク實ニ十分ナル權ヲ有セリ又次ニ獨乙ノ例ヲ見ニ獨乙ハ別段既定ノ歳出ナルモノアルコトナシ然レトモ獨乙皇帝ノ大權ハ日本憲法ニ規定セル大權ト同シ故ニ其憲法ヲ見ルニ又我モ憲法ノ如ク海陸軍ノ兵制ヲ定メ之ヲ編成スルノ權ハ其皇帝ノ大權ニ屬セリ獨乙皇帝ハ其憲法ノ條規ニ從ヒ千八百七十四年五月二日ノ法律兵隊ノ數ヲ定メ且ツ其兵數ハ七年間動かス可ラサル確定ノモノトナセリ而シテ此確定ノ兵數ヲ養フニ足ル經費ハ毎年議會ノ協賛ヲ經ヘキモノト定メタレトモ兵數既ニ定マル以上ハ之ニ必要ナル經費ハ議會ニ於テ是非共ニ支出ヲ可決セサル可ラズ國會ハ固ヨリ其經費ノ支出ヲ議スルニ付テハ全權ヲ有スルモノナリト雖トモ奇モ之ヲ減額シ之ヲ削除シ又ハ其支出ヲ中止スルトキハ皇帝ノ憲法上ノ大權ニ依テ定メラレタル定數ノ兵隊ヲ養フコト能ハス從テ皇帝大權ノ執行ヲ妨クルノ結果ヲ生スルニ至ルカ故ニ議會ハ七年間軍費ノ豫算案ニ對シテハ減額ノ說ヲ起スヲ得スト云ハサル可ラス然ラハ即チ獨乙ハ憲法上既定ノ歳出ナシト

雖トモ此ノ確定且繼續的ノ定數兵員ヲ備フル以上ハ此ノ軍費ニ對シテハ實既定ノ歳出ト異ナラサルナリ然レトモ此一事ノ外ハ英國ノ如キ制限ハ之ナキナリ英佛獨ノ例ハ右ノ如シ英國ノ既定歳出ハ之ヲ特ニ既定ノ歳出ナリトシテ議會ノ議權ヲ制限スルノ必要アルヤ否ヤ先ツ公債ノ利子及ヒ思給金ニ付テ論セシニ公債ノ利子及ヒ思給金ハ既定ノ歳出トシテ定ムルモ左程ノ利益ハ存セサルナリ若シ之ヲ豫算案ニ編入シテ議會之ヲ可決セサレハ國王ハ之ヲ不認可シテ足レリ此場合ニ於ケル國王ノ不認可ハ實ニ至當ノモノナリ何ゾ特ニ既定ノ歳出ナリトシテ議會ノ議權ヲ減殺スルノ要アラシヤ又議會ハ此等ノ經費ヲ漫ニ削減減額スルノ憂ナキナリ是レ大陸ノ學者カ此歳出ヲ以テ既定ノモノト爲スモ左程ノ利益ヲ見出ス能ハス死力ヲ盡シ國會ト噴嘩シテ之ヲ維持センコトヲ勉ムルヲ要セスト云フ所以ナリ然レトモ王室費裁判官ノ俸給ノ如キハ既定ノモノトナシ國會ヲシテ年々之ニ啄ヲ容ル、コトヲ許サルハ當時ノ勢ヨリ實ニ已ムヲ得サルモノアリ又實ニ必要ノ規定ト云ハサル可ラス

之ヲ要スルニ英國ヲ除クノ外ハ豫算ノ幾分ヲ既定ノモノトナシ議會ノ權ヲ狹少ナラシムルモノハ獨逸七年ノ軍事繼續費ノ外他ニ其例ヲ見サルナリ獨逸ノ七年繼續費ト雖トモ其實ニ至テハ國會ハ毎年之ヲ増減スルノ權アリ唯ダ兵額既ニ定リ軍隊ノ編成既ニ大權ニ依テ七年間動ス可ラサルモノトナレルヲ以テ其兵額ニ必要ナル經費ハ七年間ハ支出セサル可ラス決シテ國會ハ大權ニ依テ定リタル兵額ニ必要ナル經費ヲ議スルノ權ヲ有セサルニアラサルナリ大權ハ單ニ兵額ヲ定ムルノミ決シテ其兵額ニ要スル經費マテヲ定メサルナリ獨逸憲法第六十三條ハ兵額ヲ定メ軍隊ノ編成維持ヲ皇帝ノ大權ニ委セリ而シテ千八百七十四年ノ法律ハ皇帝ノ大權ニ依テ兵數ハ七年間動かス可カラサルモノトセリ

第三節 豫算ノ款項ニ對スル權

衆多ノ人ヨリ成ル議政體ハ大項ニ止マル可ク細項ニ入ル可ラストハ一大原則ナリ夫レ政府カ豫算案ヲ出シタル時ニ當リ議會カ其豫算案ニ對シ細カナル節

目點ニマテ立入テ議スルハ蓋シ議會ノ長所ニアラサルナリ諸君モ知ルナラシ豫算案ハ款ヲ項ニ分チ項ヲ目ニ分チ目ヲ節ニ分ツナリ而シテ國會ハ其款ト項トヲ議スルニ止マレリ此款ト項トハ國會ノ議定スルモノナルカ故ニ一旦之ヲ議定シタルトキハ政府ハ此款項ヲ流用スルコトヲ得サルモノトス例ハ陸軍省ノ經費中第一款幾何圓陸軍本省ノ費用第二款幾何圓憲兵ノ費用ト記載アリタルトキハ國會ニ於テ其第一款第三款ノ額ヲ議定シタリト假定セヨ政府ハ第三款ノ憲兵費餘アリトテ之ヲ陸軍省ノ費用ノ方ニ使用スルコトヲ得サルモノナリ又例ハ第一款某省ノ經費トアリ其第一項ニ俸給及諸給トアリ第二項ニ廳費トアリ而シテ國會此ノ項ヲ議決シタルトキハ其主任ノ大臣ハ俸給ハ必ス第一項ノ經費ヲ以テシ廳費ハ必ス第二項ノ經費ヲ以テセサル可ラス決シテ廳費ノ餘リアルヲ以テ之ヲ俸給ニ充テ又俸給ノ餘リアルヲ以テ之ヲ廳費ニ流用スルヲ得サルナリ議會ノ議權ハ單ニ款項ニ及ヒ項中ノ目、目中ノ節ニマテ議及スル能ハサルナリ

余ハ深ク豫算論ノ細節ニ入ルヲ欲セサレトモ講義ノ順序トシテ日本ノ豫算ニ

於テ款項目節ノ分チ方法ヲ舉示セン内務省所管ノ歳出ニ於テハ第一款ヲ内務本省費トシ第二款土木監督區署費第三款ヲ集治監費トセリ而シテ第一款ヲ分チ九項トシ第一項ヲ分チ第八目トセリ第一項ハ俸給及諸給ニシテ第一目ハ勅任俸給第二目ハ奏任俸給第三目ハ判任以下俸給トセリ故ニ此ノ豫算ノ組立テ方ニ依ルトキハ日本ノ國會ハ俸給及諸給ノ總額ヲ議定スルヲ得ルモ勅任官幾人ヲ置クヘシ奏任官幾人ヲ置クヘシトノ議決ヲナスヲ得ス故ニ主任ノ大臣ハ勅任官ノ俸給ヲ以テ奏任官ニ給シ奏任官ノ俸給ヲ以テ勅任官ヲ優待スルモ國會ハ之ニ喙ヲ容ル、ヲ得ス主任ノ大臣モ國會ニ對シテ亦タ其責任ヲ負ハサルナリ

豫算ヲシテ豫算ヲ討論セシムルニ當リ豫算ヲ科目ニ分チ或ル分科マテニ議會ノ議權ヲ制限スルコトハ各國ノ採用セル原則ナルカ如シ余ハ今マ歐米各國ノ例ヲ舉ク以テ諸君ノ研究ノ材料トナサントス

佛國ノ議會ノ議決シテ流用ヲ禁スルハ項ニ止ルト雖ヒ目中ノ金額ヲ増減スルヲ得千八百九十一年度ノ内務省ノ豫算第二項(シヤビートル)三十二萬二千四百

「フラン」雜費トシ其ノ項ヲ分チ十個トナセリ第一ハ薪炭費四萬六千フラン第二點燈費三萬四千フラン云々ト定メタリ而シテ第三項ニハ救助費トシテ又六十九萬フランヲ設ケリ議會第二項ノ三十二萬二千四百フランヲ議決シタルトキハ内務大臣ハ其ノ項中ノ金額ヲ以テ第三項ノ救助ノ費用ニ充ツル能スト雖トモ薪炭費四萬六千フランヲ減シテ四萬フラントナシ點燈三萬四千フランヲ減シテ三萬フラントナシ第二項ノ總額ヨリ一萬フランヲ減シタリトスルモ内務大臣ハ薪炭費ヲ以テ點燈費ニ流用スルヲ得ルナリ何トナレハ豫算ノ分科即チ主務大臣ノ流用ヲ禁スルモノハ項ノ額ニシテ其以下ノ細目ニアラサレハナリ故ニ佛ニテハ目ノ増減ヲナスヲ得ルト雖トモ決シテ主務大臣ノ流用ヲ禁スルニアラサルナリ

佛ノ議會ニテハ主務大臣ノ流用ヲ禁セントスルトキハ目ヲ以テ項トナスコトアリ例ヘハ前例ノ薪炭費及點燈費ノ流用ヲ禁セントスルトキハ此ノ薪炭費ヲ以テ別ニ一項トナシ又點燈費ヲ以テ一項トナスカ如シ若シ之ヲ項トナストキハ主務大臣ハ之ヲ流用スルヲ得サルナリ然トモ議會カ之ヲ爲スハ唯タ其流用

ヲ許シテ害アリト信スルトキニ於テ爲スコトハ之ニ徴シテ明ナリ佛國議會カ如何ニ粗纂ナリトテ點燈費ヲ一項ト爲スカ如キ馬鹿ヲ爲サ、ルナリ但タ事ノ重大ナルモノニ限ルノミ今千八百九十年度ノ豫算ニ依ルニ十省ノ項ノ總數七百五十アリ

我カ日本ノ國會ニ於テ一ノ問題ノ生スヘキモノアリ即チ前例中佛國ノ如ク新ニ項ヲ設クルヲ得ルヤ否ヤ是ナリ二十三年度ノ豫算ニ依ルトキハ内務省經費ハ左ノ如シ

第一目 勅任官 俸給

第二目 奏任官 俸給

議會若シ内務大臣カ漫ニ奏任官ノ俸給ヲ流用シテ勅任官ノ俸給ヲ増スコトヲ禁セント欲スルトキハ佛國ノ例ノ如ク勅任官俸給及奏任官俸給ノ目ヲ項トナシ其金額ヲ議決セハ其目的ヲ達スルヲ得ヘシ日本ノ議會ハ此ノ如ク新ニ項ヲ設クルヲ得ルヤ否ヤ曰ク憲法其ノ他新ニ款項ヲ設置スルヲ禁スルモノナキ以上ハ之ヲ設クルヲ得ルト云ハサル可ラス然レトモ會計法補則ニ依レハ官吏ノ

俸給ハ政府ノ同意ナクシテ廢除削減スルヲ得サルカ故ニ之ヲ爲スコトヲ得サルカ如クナレトモ一方ヨリ看察スレハ目ヲ以テ項トナスハ廢除コアラズ又削減コアラズ議會ハ之ヲナスノ權アルカ如シ余ハ暫ク之ヲ諸君ノ判斷ニ委セン英國 各條毎ニ議決ス各條ノ總數ハ二百五十以上ニ達ス英國々會ハ豫算全體ヲ議セス既定歲出ナル者アルカ爲ニ其議スル處ハ豫算ノ一部ニ過キサリナリ獨逸帝國及普國 獨逸帝國ノ豫算ハ之ヲ項ニ分チ細條ニ分タス大概ヲ示スニ過キサリナリ普國ノ豫算ハ之ヲ款(チートル)ニ分チ其數二百以上ニ達ス款中ノ費目ハ互ニ流用スルヲ許スト雖トモ各款ヲ互ニ流用セントスルトキハ議會ノ協賛即チ法律ノ允許アルニアラサレハ能ハサルナリ 埃國 埃國ノ議會ハ毎目ニ議決ス目中ノ流用ハ自由ナレトモ其目ヲ出テ、他ノ目ニ流用スルヲ得サルナリ 伊國 伊國議會ノ議權ホト廣大ナルモノハ恐クハ他ニ其類例ヲ見サルヘシ伊國ニテハ目ノ數九百以上ニ及ヒ議會ハ一々之ヲ議決スルモノナリ其討議スル目中ノ節ヲ合スルトキハ議會ノ討論議定スルモノハ其數實ニ多カルヘキナリ

議會一度議決シタルトキハ政府ハ一文タリトモ流用スルヲ得サルナリ
 白耳義國 佛國ノ制ニ倣フテ豫算ヲ調製セリ然レトモ其議會ノ議權ハ佛國ヨ
 リ大ナリトス佛國ニテハ項ヲ分科トナシテ之ヲ討論議決スト雖トモ白耳義國
 ニ於テハ項ヲ下リ目ニ及テ各目ヲモ討議決定スルナリ千八百八十四年度ノ豫
 算ニ依ルトキハ項ノ數八十三ニシテ目ノ數ハ四百四十七ニ及ヘリ
 和蘭及デンマーク國 和蘭國會ノ議決權ハ實ニ細節ニマツ及フヲ得ルナリ又
 デンマーク國ノ議會ハ實ニ些少ノ金額ト雖モ仍之ヲ議定スルヲ要スルモノト
 セリ

(第三回)

第二章 國會ノ外交條約ニ於ケル權

國會ノ外交條約ニ於ケル權限ハ政體ノ組織ニ依リ各國其趣ヲ異ニス君主專制
 ノ國ニ在テハ外交條約ニ關スル權限獨リ君主ニ屬ス民主政體ノ國ニ在テハ多
 クハ國會獨リ直接又ハ間接ニ此權限ヲ掌握ス是故ニ國會ノ外交條約ニ於ケル

權限ハ一般ノ原則ヲ以テ之ヲ斷定スルコトヲ得ス其國ノ政體ニ依テ定メザル
 可ラス

試ニ其政體ニ就キ國會ノ外交條約ニ於ケル權限ヲ支配スルノ原則ヲ指示セン
 ニ君主專制ノ國ニ在テハ立法行政司法ノ大權ハ君主ノ獨リ專ラニスル所ナル
 カ故ニ此外交條約ニ於ケル權モ亦君主ノ全權ニ屬シ國會ハ毫モ之ニ關與ス
 ルノ權ナシ之ニ反シ共和政體ノ國ニ在テハ國會ノ可決ヲ得サレハ如何ナル外
 交條約ト雖モ決シテ有効ナル能ハサルナリ

又君主專制ト共和政體トノ中間ニ存立スル立憲君主政體ノ國ニ在テハ國會ハ
 多少之ニ關與セリ然レトモ立憲君主政體ナル我日本ニ在テハ憲法第十三條天
 皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及ヒ諸般ノ條約ヲ締結ストアルカ如ク外交條約ニ於ケ
 ル大權ハ獨リ 天皇陛下ノ專ラニシ給フ所ナルカ故ニ特ニ國會ノ外交條約ニ
 於ケル權限ト題シテ之ヲ詳説スルノ必要ナカル可シ故ニ余ハ廣ク外國ノ事例
 ニ依リテ國會ノ外交條約ニ於ケル權限如何ヲ論究セントス

立憲君主政體ノ國ニ在テハ外交條約ニ係ル國會ノ權限ハ條約ノ性質ニ依テ異

ナリトス其條約ノ性質ハ之ヲ分テ二種トナスヲ得第一宣戰講和ニ關スルモノ
 第二商業及ヒ租稅ニ關スルモノ即チ是ナリ宣戰講和ニ關スル外交條約ニ付テ
 ハ國會ハ之ニ關與スルノ權ナシト雖トモ商業及ヒ租稅ニ關スル外交條約ニ至
 テハ國會ノ協賛アルニ非ラサレハ其條約有効ナラサルナリ今外國ノ例ヲ引テ
 之ヲ示サン

英國ハ折衷様ノ主義ヲ採レリ即チ外國ト條約ヲ締結シ並ニ之ヲ批准ス
 スルノ權ハ英國王ノ全權ナリ但シ國王之ヲ行フニ當テハ樞密院ノ諮詢ヲ經
 ルコトヲ要ス其諮詢ヲ經レハ締結シ批准スルコトヲ得然レトモ其諮詢ヲ經
 テ締結シ批准シタル條約ハ直ニ以テ有効ナリト即斷ス可ラス之ヲ有効ナラ
 シムルニハ國會ノ決議ニ付セサル可ラス國會ニ於テ之ヲ議決ノ始メテ効力
 ヲ有スルモノトス然レトモ總テノ條約皆ハ國會ノ議決ヲ要スルニ非ラス其
 國會ノ決議ニ付ス可キ條約ハ唯タ立法事業ニ屬スルモノニ限レリ假ハハ關
 稅率ヲ増シ若クハ減シ又ハ外國人カ英國ニ土地ヲ所有スルニ付テノ條件ヲ
 定ムルカ如ク立法ニ關スル性質ヲ有スル條約ノミ國會ノ決議ニ付ス可キモ

ノトス夫ノ戰ヲ宣シ和ヲ講スルニ關スル條約ノ如キハ立法事業ニアラサル
 カ故ニ國會ノ決議ヲ經ルヲ要セサルナリ

獨逸モ亦英國ト同シク條約ヲ締結シ批准スルノ權ハ獨逸皇帝ノ大權ニ
 屬スト雖トモ若シ其條約ノ目的トスル事實カ一國ノ財務ニ關スルモノ例ヘ
 ハ關稅ノ増減ニ關スルモノ又ハ一國ノ立法事業ニ屬ス可キモノナルトキハ
 國會ノ協賛ヲ得サル可ラス

米國 此國ハ外國ト條約ヲ談判シ條約ヲ締結シ條約ヲ批准スルノ權ハ大統領
 ニ屬ス然レトモ縱令大統領力締結スルニセヨ其條約ハ總テ上院ノ認可ヲ得
 ルコトヲ要ス上院之ヲ可決セサルトキハ其條約ハ有効ナラサルナリ加之其
 條約中財務ニ關スルモノ例ヘハ海關稅ノ如キ又一國ノ立法事務ニ關スルモ
 ノ例ヘハ外國人ノ裁判權又ハ身分ノ得喪ノ如キノ條約ハ下院認可ヲ得ルニ
 アラサレハ完全ノ効力ヲ有セサルナリ

佛國 拿破崙三世ノ盛ナル時代ニ當テハ宣戰講和ハ固ヨリ論ナク通商條約締
 結ノ權ニ至ルマテ寧テ帝王ノ特權ニ屬セリ

拿破崙三世ハ皇帝カ通商條約ニ於テ定結シタル關稅率ハ法律ト同一ノ効力ヲ有スルモノト定メタリ然レトモ此事到底社會ノ進歩ニ抵抗スル能ハス千八百七十年ニ至リ關稅又ハ外國郵便稅率ノ變更ハ法律ニ依ルヲ要ス即チ國會ノ議決ヲ要スルモノト定メタリ

今日ノ共和政體ニ至リ戰ヲ宣スルハ國會ノ議決ヲ要スルモノトナレリ(千八百七十五年憲法第九條)獨リ宣戰講和ノ權ノミナラス一國ノ財政ニ關係ヲ有スル條約及外國ニ在ル佛國人ノ身分及所有權ニ關スル條約ハ總テ國會ノ議決ヲ經ルヲ要ス大統領ハ條約ノ談判ヲナシ之ヲ批准スルノ權ヲ有スルモ國會ノ議決ヲ經サレハ其條約ハ有効ナルヲ得サルナリ

民主政體其他ノ國ニ於テ國會カ大統領若クハ國王ノ締結シタル條約ニ協贊ヲ與フルニ當リ國會ハ其條約ヲ變更スルコトヲ得ルカ曰ク英吉利及ヒ亞米利加ニ於テハ國會之ヲ變更スルノ權アリ其例ハ一千七百十三年英國佛國西班牙國及ヒ和蘭國カユトレクトニ於テ西班牙ノ相續ニ關シテ條約ヲ結タル時英國ノ國會ハ之ヲ變更シタリ故ニ其條約ノ全部ハ施行サレシテ議院カ可決シタル

部分ノミ行ハレタリキ又千八百九年九月三十日米國議院ハ自國ノ條約全權委員カ英佛二國ト締結シタル條約ヲ變更シ更ニ一箇ノ條項ヲ加ヘタリシニ佛國ハ之ヲ承諾シテ完結シタルノ例アリ

右ニ説ク所ニ由テ觀ルトキハ其締結シタル條約ニ効力ヲ附與スルノ權限カ國王若クハ大統領ニ專屬セサル國英米佛ノ如シト條約セントスル邦國ハ其締結ノ方法ハ條件附ナルコトヲ覺悟セサル可ラズ即チ其國ノ國會カ認可シタルトキハ施行ス可シトノ未必條件ヲ附加スルコトヲ知ル可シ之ニ反シ其條約ノ談判締結批准及ヒ之ヲ有効ナラシムルノ權總テ君主ニ屬スルノ國ニ在テハ條件ノ附加スルモノト云フコトヲ得サルナリ

英米ノ國會ハ其條約ヲ變更シ得ルコト上ニ述タルカ如シ然レトモ佛國議院ハ稍々之ニ異ナリ大統領ノ締結シタル條約カ國會ノ議ニ附セラルトキハ國會ハ或條ヲ刪除シ若クハ追加スルコトヲ得ス唯タ全體ヲ可トスルカ又ハ非トスルカノ一アルノミ若シ其全體ヲ非トスルトキハ大統領ハ之ヲ有効ナラシムルコトヲ得ス若シ其全體ヲ非トスルニアラスシテ或部分ヲ非トスルコトアリ例

〜ハ其條約中ニ土地ノ讓與ニ關スルコト、關稅ニ關スルコトノ二アリトセン
 ニ國會カ其關稅ノコトニ同意シテ土地ノ讓與ニ關スル條約ニ同意セサルトキ
 此場合ニハ國會ハ其同意セサルコトヲ大統領ニ通知スルモノトス然ルトキハ
 大統領ハ其不同意ノ點ニ付テ更ニ外國ト協議ヲ爲サ、ル可ラス故ニ佛國議院
 ノ權限ハ英米議院ノ權限ニ比フレハ狹隘ニシテ刪除シ追加スルノ權ナシ
 願テ我國ノ狀勢ヲ觀ルニ條約改正ノ事業ハ正ニ目下ニ垂レ國會ノ開期モ亦タ
 將ニ日一二ノ間ニ見ントス此時ニ當リ其條約ハ此國會ノ議決ニ附ス可キヤ否
 ヤ是レ當ニ緊急ノ一問題タリ余ハ其論點ハ之ヲ他日ニ讓リ余ハ唯々諸君ニ歐
 米各國ノ事例ヲ舉ケ以テ諸君研究ノ材料トナスニ止メントス

(第四回)

第三章 議院ノ大赦ニ於ケル權

議院ノ大赦ニ於ケル權ハ前已ニ述タル所ノ財政ニ於ケル權ニ比スレハ格別ノ
 興味ヲ覺ヘス故ニ此事項ハ簡略ニ説キ過キテ速ニ第二編ニ移ル可シ而シテ其

第二編ニ至リナハ我議院法及議院規則ニ對シ卑見ノアル所ヲ諸君ニ示シ聊カ
 諸君ニ質タス所アラントス
 大赦トハ諸君カ刑法刑事訴訟法ノ講義ニ於テ己ニ承知セラレシ如ク犯罪ヲ遺
 忘セシムルコアリ換言セハ犯罪タルノ觀念ト刑罰ノ執行トヲ消滅セシムルモ
 ノニシテ一時法律ヲ廢止スルモノナリ
 此ノ如ク大赦ハ犯罪ノ記念ヲ遺忘セシムルノミナラス刑罰ノ執行ヲ止息セシ
 メ一時法律ヲ廢止スルモノトセハ大赦ヲ爲スノ權ハ議院ニ屬スト言ハサル可
 ラス何トナレハ法律ヲ制定スルノ權ハ議院ニアル以上ハ其法律ノ効力ヲ廢ス
 ルノ權モ亦タ議院ニ存ス可キハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナレハナリ然レトモ各國
 ノ大赦ニ關スル制ヲ通觀スルニ殆ト咸ナ之ヲ君主ノ全權ニ委シ未ダ曾テ議院
 ニ委セス是レ如何ナル理由アリテ然ルヤ曰ク他ナシ唯々政界上ノ理由ノミ即
 チ理論上此權ノ議院ニ存スルハ毫モ疑ヲ容レスト雖トモ其理論ヲ貫テ之ヲ議
 院ニ委スルトキハ政略上大ニ不都合ヲ讓スカ故ニ枉テ君主ニ委シタルモノナ
 リ故ニ歐洲ノ君主國ニ於テハ大赦ヲ行フノ權ハ君主ノ大權ニ屬スト爲セリ唯

タ共和國ナル佛蘭西ニ於テノミ獨リ議院ニアリトス日本ニ於テハ憲法第十六條ニ天皇ハ大敎特敎減刑及ヒ復權ヲ命スト記シテ大敎ハ天皇陛下ノ大權ニ屬スルコトヲ明示シタルカ故ニ日本國會ハ大敎ニ關シ苟モ容喙スルノ權ナキヤ知ルニ餘アリ

第二編 國會ノ成立

本編ニ於テ講スル所ハ議會内部ノ組織ナリ
廣ク眼ヲ注テ歐洲各國議院内部ノ組織ヲ觀ルニ國體ニ依テ各々其趣ヲ異ニスルカ故ニ之カ一原則ヲ案出スルハ甚タ困難ナリ然レトモ其各異ナルモノヲ總合シテ看察スルトキハ蓋シ二個ノ組織ニ分類スルコトヲ得第一英吉利流ノ組織第二大陸流ノ組織是ナリ
英吉利流ノ組織トハ自然ノ慣例ヨリ成ル組織ヲ云フナリ即チ日本ノ如キ議院法ト稱スル成文法ニ依テ成ルニアラス古來ノ慣例カ自然ト組織ヲ爲スノ法ヲ形クリシモノナリ此流ノ組織ニ依ル國ハ英及ヒ米ナリトス

大陸流ノ組織トハ英米ノ如ク習慣ヨリ成ルニアラスシテ内部其他ノ組織皆チ一ノ成文法ヲ以テ成ル組織ヲ云フナリ此組織ニ依ル國ハ佛蘭西伊太利白耳其獨逸墺土利等トス

大陸流ノ組織ハ其源ヲ英吉利ニ汲ミタルヤ必セリ蓋シ歐洲中最モ先ニ議院制度ヲ採リシハ英吉利ナリ而シテ佛蘭西第一着ニ之ニ倣ヘリ然レトモ佛蘭西ノ氣風トシテ肯テ不文ノ法ニ安スルコトヲ爲サズ愛ニ一個ノ組織法ヲ制定セリ而シテ他諸國漸次佛蘭西ノ制度ニ倣ヘリ是ニ由テ之ヲ觀レハ大陸流ノ元祖ハ佛蘭西ナリ故ニ議院内部ノ組織ヲ二派ニ分ツニ當テハ英國派及佛蘭西派ト云フモ決シテ穩當ヲ欠キタル分類說ト云フ可ラス日本ハ是ヨリ英流ヲ汲マントスルカ將タ又佛派ニ倣ハントスルカ英ノ錯雜ナル余ハ其學ヒ難キヲ信スルナリ大陸制度ノ簡易ニシテ且ツ明瞭ナル獨リ事ノ便益ノミナラス學問上ノ講究ニ於テモ亦タ大ニ裨益アルヲ信スルナリ

余ハ本編ニ入ルニ先チテ愛ニ說明セサル可ラサルモノハ我カ議院法第五條ノ成立ナル文字是ナリ此ノ成立ノ文字ニ付テハ世人誤解ヲ抱ク者少カラス

第五條 兩議院成立シタル後勅令ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員

ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

本條ノ所謂成立ノ意義ハ人之ヲ文字ノ如ク議院ノ成生ト解ス是レ非ナリ成生ノ意義ニ於ケル成立ハ佛語之ヲ「エキザスタンス」ト云フ即チ事ノ始テ成立ツヲ云フナリ然レトモ茲ニ云フ所ノ成立ハ「エキザスタンス」ニアラスシテ「コンシチチユエー」ト云ヒ事ノ始テ組織セラル、ヲ云フナリ成立ト組織トハ混ス可ラス事ノ實想ヲ穿ツニ事物ハ已ニ成立スルモ未タ其機關ノ組織セラレサルモノアリ換言セハ組織ナクシテ成立アルモノアリ若シ論者ノ如ク言フトキハ開院式前ニハ未タ議院ノ成立ナシ議院ノ成立ナケレハ議院ニ於ケル議員ハ未タ之ナシ議員ナケレハ議長ナシ果シテ然ラハ若シ議院法第三條ニ從ヒ議長ヲ撰ヒタルトキハ何人之ヲ撰ヒタリトスルカ又全第四條ニヨリ部ヲ分ツタルトキハ何部ヲ分ケタリトスルカ議院成立セスシテ議長ヲ撰ヒ部ヲ分ケ部長ヲ撰ヒタルハ奇モ亦大甚シト云フ可シ是ヲ以テ第五條ノ所謂成立トハ組織ノ謂ナリト解セサル可ラス

第一章 議長局ノ組織

議院ハ政府ニ對シテ獨立スル所ノ一團體ナリ獨立シテ以テ立法事務ヲ執ル可キ者ナリ獨立以テ其事務ヲ執ランカ自由ナル已レノ意思ヲ以テセサル可ラス若シ自由ノ意思ニ依ルナク苟モ他ノ箝制ニ依テ爲サンカ是レ獨立ナラサルナリ憲法已ニ議會ニ命シテ立法事務ヲ執ラシム、議會此命ニ依テ以テ立法ノ事務ニ當ル已ニ然ラハ之ニ當ル必要ノ規程モ亦自ラ定ムルノ權ナラサル可ラス我憲法第五十一條ニ於テ兩議院ハ此憲法及ヒ議院法ニ掲グルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得ト規定シタルハ即チ國會ハ獨立ノモノナルカ故ニ其事務整理ニ必要ナル規程モ亦自ラ定ムル權アリトノ原則ヲ是認シタルコト以テ知ル可キナリ然レトモ我憲法ハ此憲法及ヒ議院法ニ掲グルモノ、外ト記シタルヲ以テ議會ハ憲法及ヒ議院法ノ爲メニハ多少ノ制限ヲ受ケサル可ラサルナリ

此ノ如ク議院ハ自ラ其事務ニ必要ナル機關ヲ定ムルノ權アリ今歐米諸國ニ於

タル議院ノ機關ヲ見ルニ英ト大陸トハ大ニ其趣チ異ニセリ英國ニハ議長局ナルモノナシ之ニ反シテ大陸ニハ議長局ナルモノアリテ議院自治ノ權チ行フ大陸各國議長局ノ組織ヲ見ルニ左ノ人員ヨリ組織セリ第一議長第二副議長第三書記官第四監督官

今大陸諸國ノ議長局各員ノ數ヲ示サン

國	議長	副議長	書記官	監督官
佛	十一人	四人	八人	三人
伊	一人	二人	八人	三人
白	一人	二人	三人	三人
獨	一人	二人	八人	二人
普	一人	二人	八人	二人
總	一人	二人	十二人	二人

(第五回)

(イ) 議長局ノ職務權限

議長職務權限

議長局ノ職務權限ハ歐洲各國稍ヤ異同アリト雖トモ之ヲ總合シテ通觀スルトキハ大同小異ノミ仍テ茲ニ其概略ヲ示サン

第一 議長局ハ議事録調製ノ監督ヲナス

第二 投票ノ點檢ヲナス

第三 發言ハ通告ヲ受ケ及ヒ之ヲ通告表ニ記載スルコト

發言通告ニ付テハ茲ニ一言セントス數百人ヲ以テ或ル議院ニ於テ數百ノ議員各々先ヲ競フテ起チ其發言ヲ爭フコトヲ許ストセハ議場ノ紛騷錯亂ハ言フ可ラサルナリ故ニ議員カ一ノ議案ニ對シテ發言セントスルトキハ反對又ハ賛成ノ意見ヲ陳述シタシ又ハ斯々ノ修正説ヲ陳ヘタシト豫メ其事ヲ議長局ニ通告スルナリ然ルトキハ議長局ハ其通告ノ順序ニ從ヒ之ヲ通告表ト稱スル表簿ニ記入ス是レ大陸派ノ議院ニ於テ採用セル普通ノ規則ナリ

第四 議事録議案其他必要ノ書類ヲ朗讀スルコト

第五 出席議員ノ數ヲ計算スルコト

第六 議院ノ豫算ヲ調製シ又議院ノ會計ヲ監督ス

日本ノ國會ハ此第六ノ權限ヲ有セス日本國會ノ豫算ハ政府ニ於テ調製シ其監督モ亦政府ヨリ任命シタル官吏之ヲ掌ルナリ顧フニ此ノ日本ノ制或ハ其レ不可ナルナカラシカ何トナレハ議院ハ果シテ幾何ノ費用ヲ要スルヤハ實際議院其者ニ非ラサレハ知ル可ラス議院以外ノ者果シテ克ク知ルコトヲ得可キヤ余ハ感ナキ能ハサルナリ且夫レ議院カ國家ノ奢侈ヲ除キ冗費ヲ省クノ說ヲ唱フル時ニ當リ獨リ議院ノニ奢侈ヲ極ムルハ良心ニ耻ルト爲シ以テ自ラ節減セント欲スルモ其豫算カ政府ノ調製ニ係ルトキハ如何トモス可ラス又他ノ一方ヨリ看察スルトキハ議院ニ於テハ猶ホ多少ノ費用ヲ増加シテ事務ノ便宜ト迅速トヲ圖ラント欲スルコトアルモ其豫算ハ自ラ定ムルコト能ハサルカ故ニ又如何トモス可ラス議院ノ意志ハ他ヨリ調製サレタル豫算ノ爲メニ拘束セラルハコト少ナカラサルヘキナリ故ニ議院ノ豫算調製及ヒ其會計監督ヲ議院ノ權限ニ屬セスシテ政府ノ權限ニ屬セシムルハ議院獨立ノ爲メ又政府政界上ノ爲メ決シテ策ノ得タルモノトハ信スル能ハサルナリ

此ノ點ハ議院會計ノ章ニ至リ尙ホ詳論スヘシ
 第七 議院ノ儀式ニ關スルコトヲ掌トル
 第八 議院内部ノ取締及ヒ議院外部ノ取締ヲ爲ス
 第九 議院内部ノ事務局組織其役員ノ職權及ヒ任免ヲ司トル
 第九ノ事項ハ一言ノ説明ヲ爲サ、ル可ラス前已ニ屢々説明シタルカ如ク歐州大陸ニ於テハ議院ニ議長局アリテ其下ニ事務局ヲ置キテ之ヲ課ニ分テ諸般ノ事務ヲ取ラシム此ノ分課ノ組織及其役員ヲ定ムルコト又其役員ノ登用ハ如何ナル方法ニ依ルヤ又其進級昇等ハ如何ナル方法ニ依ルヤハ皆テ議院ノ權限ニ屬スルナリ而シテ佛國ニ於テハ此等ノ役員ハ政府ノ官吏ト異ニシテ全ク獨立ノモノトナシ此等役員ニ關スル進級例恩給例トシテ特別ノ規則アリ然レトモ夫ノベルギク國ノ如キハ其進級及恩給ハ皆テ普通官吏ノ爲メニ定メタル規則ニ依ル可キモノト爲セリ左レトモベルギク國ノ規定タル唯ニテ便宜ノ爲メ普通規則ヲ適用シタルノミ之カ爲メ其獨立ヲ傷ケタルモノト思惟ス可ラス

議長局ノ職掌ハ右ノ九トス而シテ此九箇ノ事項タルヤ唯タ其概畧ノミ他ニ小ナルモノヲ示サントセハ枚擧ニ違アラサルナリ

右九箇ノ職掌ハ之ヲ合シテニ大別スルコトヲ得第一立法事務第二行政事務即チ是ナリ

第一立法事務トハ右ニ示シタル第一ヨリ第五ニ至ル職掌ヲ云フナリ此事項ハ皆ナ立法ノ事業ニ屬スルモノナリ而シテ此事務ハ議長之ヲ指揮監督ス

第二行政事務ハ右ニ示シタル第六ヨリ第九ニ至ル職掌ヲ云フ此事項ハ皆ナ行政ニ關スルモノニシテ日本ノ會計庶務ニ相當ス行政事務ハ議長局ヲ組織スル議員選舉ノ監督官ニ於テ監督ス

茲ニ特ニ注意ス可キハ前掲ノ議院内部ニ關スル規則即チ第九項ヲ定ムルカ如キハ議長局全般ノ職務ニシテ立法事務ニ屬セス又行政事務ニ屬セサルナリ又各國ノ例ヲ觀ルニ右ノ立法事務ヲ數個ニ分テ議案課印刷課等ニ分チ每課ニ課長ヲ置キ議院カ登用試験ヲ以テ任命シタル議員外ノ事務員即チ書記官ヲ以テ之ニ充テ而シテ各課ノ上ニ書記官長ヲ置ク此書記官長ハ純然タル事務員ニ

シテ議員外ノ者ヨリ採用シ殆ト終身ノ者ナリ議員ノ先例ヲ暗知シ錯節ナル問題ヲ解シ議長ノ顧問タルモノハ此ノ書記官長ニ外ナラサルナリ

之ヲ要スルニ大陸派ノ議院ニ於テハ議院ニ關スル事務ハ總テ議院自主ノ權ヲ以テ之ヲ處理スル爲ニ議員中ヨリ議長局ヲ設ケ其立法ト直接ノ關係ヲ有スル事務例ヘハ議事録ヲ作り投票ヲ點檢スル等ハ議長局ノ書記官之ニ任シ其庶務會計ニ關スル事務ハ議長局ノ監察官之ヲ監督ス議長局ノ下ニ事務課アリ各事務課ニ書記官ヲ置ク各事務課ノ書記官ハ全ク議員外ノモノナリトス而シテ各事務課ヲ總理スル書記官長アリ此書記官長モ亦議員外ノモノナリ之ヲ日本議院ニ比スルトキハ日本ノ事務局ハ議長ノ指揮ヲ受ケ歐洲ノ事務局ハ議長局ノ指揮ノ下ニ立ツ日本ノ事務局員ハ政府ノ推薦ニ依ル歐洲ノ事務局員ハ議長局又ハ議院ニ於テ之ヲ命ス

第二章 議員ノ資格審査

議院ハ獨立ナリ獨立自主ノ權ヲ有スル以上ハ其議員ノ資格ヲ有セサル者又不

0237

德廢敗ナル者ヲ退ク自ラ其品位ヲ高シ其神聖ヲ保ツノ權ヲ有セサル可ラス
 此ノ目的ヲ達スル爲ニハ議院ハ其議員ハ正當ノ撰擇ニ依リテ此議院ニ來リタ
 ルヤ又正當ノ資格ヲ以テ此議院ニ來リタル否ヤハ議院自ラ之ヲ檢査セサル可
 ラス若シ之ヲ檢査スルノ權ナカランカ議院ハ獨立チ全フスルコト能ハサルナ
 リ今各國ノ例ヲ見ルニ此權ハ憲法上議院ニ與ヘタル至強ノ權ナリ故ニ歐州ニ
 於テハ其資格ノ眞實ヲ知ラサレハ正當ノ議會ヲ開クヲ得ス又有効ノ議決ヲ爲
 スコトヲ得サルナリ此原則ヨリシテ佛國ニテハ總撰舉ニ於テ假議長ヲ撰ヒ四
 百餘名ノ議員ノ撰舉明細表ヲ各部(十部ナリ)ニ分配シテ其資格ヲ審査セシム
 而シテ各部ノ審査ニ於テ此議員カ正當ノ撰舉ニ依リ且ツ正當ノ資格ニ依リテ
 來リ集マリタルモノニシテ皆ナ正當ノ權利ヲ有スト認定セラレタルモノ議員
 過半數ニ滿ツル時始メテ確定ノ議長局ヲ組織スルナリ佛國ノ此制ハ或ハ理論
 ニ走り實際ニ違カルヤ知ル可ラスト雖トモ苟モ議院ニシテ獨立タラントセハ
 此審査ノ權ナカル可ラス是ヲ以テ他ノ諸國モ亦タ佛國ノ如ク皆ナ之ヲ許セリ
 今他國ノ例ヲ示サン

獨逸 此國ハ開會ノ日ニ議員撰舉明細表ヲ各部ニ分配シ此ヨリ十日間ニ議員
 ノ資格ニ付テ異議ヲ申述フル者ナキトキハ皆ナ正當ノ資格ニ依リ正當ノ撰
 舉ニ依リテ臨會シタルモノト見做シテ始メテ眞正ノ議長ヲ撰ヒ眞正ノ書記
 官ヲ撰ヒ眞正ノ監督官ヲ撰ヒテ確定ノ議長局ヲ組織スルモノトス若シ十日
 間ニ異議アリテ果シテ其撰舉其資格カ不當ナリト認定スルトキハ其撰舉ハ
 無効トシテ取消サル、モノトス
 澳太利 此國モ亦タ佛國ト同ク開會ノ日ニ各議員ノ撰舉明細表ヲ各部ニ分配
 ス而シテ各部之ヲ審査シテ正當ナルコトヲ認メタルトキハ議場ニ於テ其旨
 ヲ報告シ議會之ヲ議決ス然ルニ各部之ヲ審査シテ正當ナラストスルコトア
 リ此場合ニ於テハ特ニ審査員ニ命シテ之ヲ審査セシム而シテ審査員ハ特別
 ニ審査ヲ爲シテ之ヲ議場ニ報告スルモノトス但シ澳國ハ異議申出ノ時限ハ
 三日内トス
 白耳其 此國ハ佛國ノ制ト同一ナリ
 伊太利 此國ハ他國ノ如ク開會ノ日ニ明細表ヲ分配シテ審査セシムルニアラ



ス唯タ別段ニ資格審査委員ナルモノヲ置キ異議ノ起リタルトキニ始メテ審査ニ着手セシム

各國ノ例ハ大略此ノ如シ日本ハ如何ト云フコ此點ニ至テハ歐洲ニ勝レリ即チ日本ハ開會ノ第一日ニ各部ノ審査ニ付スルカ如キコトヲ爲サス異議ノ生シタル時始テ委員ヲ設ケ時日ヲ期シテ審査スルモノト爲セリ議院法第七十八條此制ハ甚ダ嘉ミス可キナリ何トナレハ公ノ手續ヲ以テ撰舉サレタル以上ハ反證ノ顯ハル、マテハ皆チ正當ノモノト見做ス可キハ當然ナレハナリ夫ノ歐洲ノ如ク公然ノ撰舉ニ依リ議院ニ出ツルニモ拘ハラヌ或ハ不正ナルナカランカト推測ヲ下ス者ニ比スレハ我カ法律ノ歐洲ノ制度ニ優ルコト遠シ政黨ノ軋轢甚シキ時ニハ議員ハ大概チ詭計姦策ノ不正手段ニ依ラサル者殆ト之ナシト云フモ詭言ニ非ラサルナリ若シ之ヲ緻密ニ審査センカ皆チ不正當ナラサルナケシテ而シテ此不正タルヤ多數ニシテ且ツ勢力アル黨派ノ議員ハ互ニ相蔽フコトヲ得ルト雖トモ少數ニシテ且ツ微弱ナル黨派ノ議員ハ多數ナル反對黨ノ爲メニ審査摘發セラレ各部ノ審査ニ於テ常ニ其選舉ヲ無効トヒラレンコトハ之ヲ

歐洲ノ事例ニ鑒ルトキハ又疑フ可ラサルナリ本年佛國總選舉ノ後議院ニ於テ資格審査ヲナセシトキ共撰舉ヲ正當ナラストシテ無効トサレタル者ハ獨リ「ブーランセ」黨派ノ議員ノミナリキ此黨派ノ議員ハ多數ナル共和黨派ノ議員ノ爲メニ審査摘發サレタルモノナリ而シテ之ヲ審査摘發シタル共和黨ノ議員ハ毫モ不正手段ナキカト云フニ「ブーランセ」黨ノ議員カ使用シタル不正手段ナリトスル所ノ賄賂ヲ行使シ又ハ酒食ヲ供シタリトノ事實ハ蔽フ可ラサルナリ然ルニ獨リ「ブーランセ」黨ノ議員ヲ排斥スルハ「ブ」黨ハ少數ニシテ自ラ救フノ力ナク共和黨ハ多數ニシテ其非チ辨護シ隱蔽スルニ十分ナル職由セスンハアラス是ニ由テ之ヲ見ルニ歐洲ノ制ハ稍ヤ弊害アリト云フ可シ然レトモ日本ハ之ニ比スレハ其弊ヤ稀ナリト云フ可シ然レトモ日本トテモ全ク弊害ナキニ非ラサル可シ何トナレハ多數ニシテ且ツ勢力アル黨ノ議員ハ反對ナル議員ノ資格ニ付テ異議ノ申立ヲ爲シ同黨互ニ相唱ヘ相和スルトキハ歐洲ノ弊ト毫モ擇フ所ナキニ至ル可ケレハナリ然レトモ歐洲ノ如ク開會ノ日ニ各部ニ選舉明細表ヲ配布シテ當然審査セシムルカ如キ者ニ比スレハ其弊ヤ稍少ナルヘキナ

ハミニアラス選舉ノ當否ニ關スルモノヲ含有ス當選訴訟ハ寧ロ選舉ノ當否ニ關スルノミト云フモ可ナリ斯ノ如ク當選訴訟ハ選舉ニ關スルモノトセハ第七十九條ニ依テ未タ訴訟ノ手續ヲ經サル選舉ノ當否ニ關シテハ議員ハ十分ニ審査スルノ權アリト云ハサル可ラス

第三 論者又曰ク當選訴訟期限内ナラハ資格及選舉ニ關シ二ナカラ訴訟ヲ提出スルヲ許ス期限後議院ニ於テハ被選ノ資格ニ關スルモノニアラサレハ審査スルヲ許サスト如何ナル理由アレハ此ノ如キ安斷ナル區別ヲナスカ實ニ怪訝ニ堪ヘサルナリ何ノ爲ニ議院ニ被選ノ資格有無ニ關シテハ審査ヲ許スカ是レ法律ニテ定メタル資格ナキカ爲ナリ又之レ議院ノ神聖ヲ侵スカ爲ナリ被選ノ資格ナキモノ議院ニ來ルハ法律及憲法ニ反スルモ暴力ヲ以テ賄賂ヲ以テ不正不徳ノ選舉ニ依リ即チ法律ノ禁シタル選舉ニ依リテ議員ニ當選セラレタルモノハ之ヲ議員ノ資格アリトシテ認可スルハ法律ニ反セサルカ憲法ニ反セサルカ又議院ノ神聖ヲ冒瀆スルコトナシト云フカ實ニ前後貫通セサル道理ナリト云ハサル可ラス

山 鑛			
縣國郡			
區村字			
鑛 脉	豎	方位	
	横	方位	
山 姿			
水 理			

